

東海地域における 農林水産物・食品の輸出促進について (東海農政局の取組)



令和8年4月

東海農政局 経営・事業支援部 輸出促進課

目次



1. 輸出促進に関する東海農政局の取組 p. 2～
2. 東海農政局における輸出産地への支援体制 p. 3～
3. 輸出事業者への具体的な支援（GFP） p. 6～
4. 輸出事業者等との連携による新たな商流の構築 p.10～
5. 積極的な情報の発信による輸出機運の醸成 p.17～
6. フラッグシップ輸出産地の認定 p.19～
7. 輸出に取り組む優良事業者の表彰 p.22～
8. 輸出証明書等の発行 p.23～
9. 地理的表示（GI）保護制度の取組 p.24～

1. 輸出促進に関する東海農政局の取組

東海農政局では、2030年5兆円目標の達成に向け、東海農政局輸出産地支援対策本部を設置。輸出促進体制の強化による輸出事業者への支援等、以下の取組を実施しています。

輸出拡大に向けた機運の醸成と輸出につながる情報や商談機会の提供

- ・セミナーの開催、優良事業者表彰の実施により、輸出拡大に向けた機運を醸成します。
- ・GFP事業を活用し、商談会の開催やワークショップの実施など具体的な輸出の開始や拡大につながる支援をします。

実際の輸出における課題の解決に向けた支援

- ・輸出を目指す事業者及び既に輸出に取り組んでいる事業者が抱える課題の解決に向けて、輸出事業計画を活用した様々な助言を行うとともに、東海農政局のネットワークを最大限に活用した支援をします。
- ・輸出の開始や拡大における事業者の課題について、産地サポーターや輸出支援ネットワークと連携して、課題解決を目指します。

輸出事業者、地域商社、商工団体、金融機関等と連携した既存商流の拡大、新たな商流の構築及び食品産業の海外展開の支援

- ・加工食品輸出先国多角化等支援事業等を活用し、中小規模事業者の輸出機会の創出や食品産業の海外展開を支援します。
- ・地域経済のハブ的役割を担う地方銀行、商工団体等と連携（協定を活用）すること等により、東海地域における新たな輸出につながる取組を進めます。

海外流出防止や競争力強化等に資する知的財産の保護・活用の推進

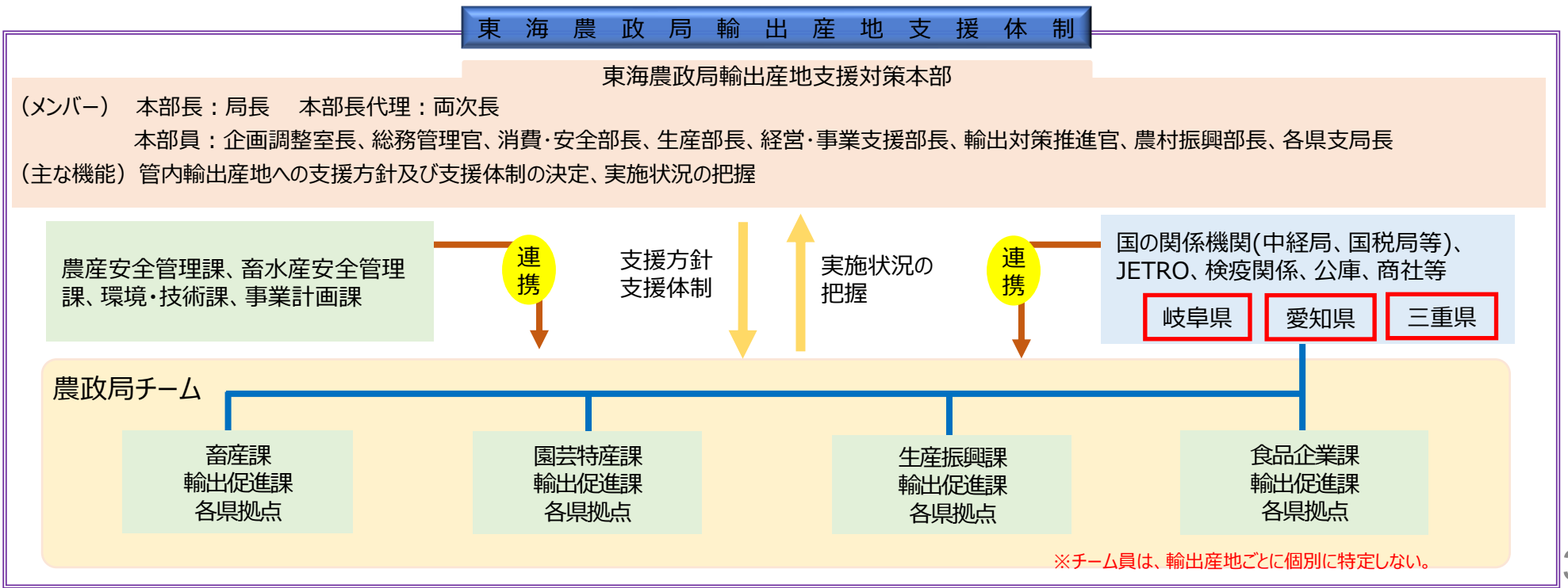
- ・知的財産の保護、活用の普及啓発と優良事例の掘起しを行い、現場における知的財産の保護及び活用の実践を推進します。
- ・地理的表示（GI）保護制度について、GI製品の名称・ブランドを保護するために必要な情報の収集、提供を行い、適切な運用を推進するとともに、新たな登録製品の提起を含めGI制度の認知向上を図ります。

2. 東海農政局における輸出産地への支援体制

2030年（令和12年）の輸出額目標 5兆円の達成に向け、管内において輸出重点品目に限らず、幅広い品目において、更に輸出を促進していくことが必要です。このため、東海農政局では、「東海農政局輸出産地支援対策本部」の下で農政局チームが引き続き連携し、次の対応方針に基づき、幅広く輸出産地・事業者の輸出促進を支援します。

～令和8年度対応方針～

- ・輸出拡大に向けた機運の醸成及び実際の輸出につながる情報や商談機会の提供
- ・実際の輸出における課題の解決に向けた支援
- ・輸出事業者、地域商社、商工団体、金融機関等と連携した既存商流の拡大、新たな商流の構築及び食品産業の海外展開の支援
- ・海外流出防止や競争力強化等に資する知財の保護・活用の推進



※チーム員は、輸出産地ごとに個別に特定しない。

(参考) 管内で輸出に取り組んでいる主な品目

《岐阜県》

飛騨地域

飛騨牛、ウイスキー、日本酒、生中華麺 など

中濃・東濃・西濃地域

酢、菓子、飲料、日本酒、即席めん、調整食料品
粉末飲料 など

岐阜地域

柿、いちご、日本酒、醤油、醤油加工品、米菓、
調製食品、鮎、鮎加工品、グルテンフリー米粉麺
など

《三重県》

北勢地域

米、茶、みえ黒毛和牛、日本酒、ごま油、
ごま製品、大豆加工品、醤油、味噌、冷凍惣菜、冷
凍弁当、米菓、丸太、たこわさ、海苔、水産調製品
、水産加工品 など

伊賀地域

米、伊賀牛、日本酒、リキュール、天然醸造醤油
、醤油、ソース混合調味料、いちご など

中勢地域

松阪牛、米、醤油、食用油、フレーバーオイル、
冷凍カステラ、LL豆腐、菓子、冷凍たこ焼き、
蜂蜜、蜂蜜加工品、氷、温州みかん、茶、ぶり、
まだい など

南勢地域

水産調製品、冷凍水産物、温州みかん、ビール、
有機醤油、有機味噌 など

東紀州地域

温州みかん、ぶり など



《愛知県》

尾張地域

日本酒、味噌、醤油、ソース混合調味料、
たまり、みりん、ソース類、レトルトカレー、
菓子、加工わさび、小麦粉、ミックス粉、
こんにゃく加工品、冷凍ラーメンキット、
鶏肉、鶏卵、れんこん、切り花、野菜種子、
製材、原木、冷凍加工食品 など

西三河地域

茶、抹茶、日本酒、リキュール、ウイスキー
、白醤油、しろたまり、白だし、醤油、味噌、
みりん、豆類加工品、せんべい、鶏卵、桃、梨
など

東三河地域

日本酒、佃煮、乾麺、大麦加工品、鶏肉、
次郎柿、ミニトマト、さつまいも、メロン、
切り花、花き など



東海地区の輸出事業計画の認定一覧

輸出事業計画の内容はこちらをご覧ください→



東海地域で輸出事業計画の認定を受けている事業者は以下の62社です。(令和8年3月末現在)

【農林水産省】HP

県	【正式名称】実施主体	品目
畜産品		
岐阜県	飛騨ミート農業協同組合連合会コンソーシアム	牛肉
愛知県	株式会社南部食鶏	鶏肉
三重県	三重県農林水産物・食品輸出促進協議会 畜産部会	牛肉
三重県	水谷養蜂園株式会社	蜂蜜、蜂蜜製品
野菜・果物等		
愛知県	あいち海部農業協同組合	れんこん
愛知県	愛知県	野菜、果樹、花き
三重県	有限会社すぎもと農園	みかん
三重県	遊士屋株式会社	いちご
その他の農産物		
愛知県	株式会社愛てん	茶
愛知県	愛知みなみ農業協同組合	切り花
愛知県	ひまわり農業協同組合	花き (バラ)
三重県	伊勢茶輸出プロジェクト	茶
三重県	有限会社秋村製茶	茶 (抹茶、てん茶)
三重県	農事組合法人三重伊賀里山整備活用組合	米
加工食品		
岐阜県	日本泉酒造株式会社	日本酒
岐阜県	岐阜県酒造組合連合会	清酒
岐阜県	多治見酒造協同組合	日本酒
岐阜県	岐阜県食品輸出研究会	日本酒、加工食品、畜産加工品、水産加工品
岐阜県	有限会社船坂酒店	ウイスキー
岐阜県	山川醸造株式会社	醤油、醤油加工品
岐阜県	EKD商事株式会社	菓子、飲料
岐阜県	森白製菓株式会社	米菓
岐阜県	株式会社マン・ネン	粉末飲料他
岐阜県	株式会社エフアイコーポレイション	その他の調製食品 (サプリメント)
愛知県	愛知県日本酒輸出拡大コンソーシアム	日本酒※愛知県産酒米を原料にした日本酒
愛知県	丸石醸造株式会社	清酒、リキュール
愛知県	相生ユニビオ株式会社	ウイスキー
愛知県	東海食品輸出コンソーシアム	酒、加工食品
愛知県	春日井製菓株式会社	菓子 (グミ)
愛知県	九重味淋株式会社	本みりん、発酵調味料、リキュール
愛知県	佐藤醸造株式会社	ソース混合調味料、味噌、醤油

県	【正式名称】実施主体	品目
愛知県	中川醸造株式会社	醤油
愛知県	日東醸造株式会社	白醤油、しろたまり、白醤油加工品
愛知県	イチビキ株式会社	味噌、醤油
愛知県	のだみそ株式会社	味噌
愛知県	七福醸造株式会社	白だし
愛知県	尾張製粉株式会社	小麦粉等、ミックス粉
愛知県	日本レトルトフーズ株式会社	豆類加工品
愛知県	ナカキ食品株式会社	こんにゃく加工品
愛知県	金印わさび株式会社	加工わさび
愛知県	魚錠フーズ株式会社	冷凍加工食品
愛知県	合資会社林製麺所	冷凍ラーメンキット
愛知県	愛知県食品輸出研究会	加工食品全般
愛知県	栗木食品株式会社	冷凍野菜惣菜
三重県	四日市商工会議所	コメ、酒類、加工食品
三重県	井村屋株式会社	ロングライフ豆腐、冷凍カステラ
三重県	株式会社福岡醤油店	醤油、ソース混合調味料
三重県	三重県醤油味噌工業協同組合	醤油 (天然醸造醤油含む)
三重県	伊賀越株式会社	天然醸造醤油
三重県	株式会社椋屋	有機醤油、有機味噌
三重県	伊勢蔵株式会社	醤油、味噌
三重県	ミナ産業株式会社	大豆加工品
三重県	オーケーズデリカ株式会社	冷凍総菜、冷凍弁当 (ごはん)
三重県	株式会社ヤマゲン	冷凍たこやき
三重県	九鬼産業株式会社	ごま油、ごま製品
三重県	中勢製氷冷蔵株式会社	氷
三重県	三重国際食品ビジネス協議会	豆乳、清涼飲料水、大豆加工品、抹茶、はちみつ製品、風味油、ドレッシング、日本酒
林産物		
愛知県	桑原木材株式会社	製材
水産物		
三重県	三重県漁業協同組合連合会	ぶり、まだい
三重県	尾鷲物産株式会社	ぶり
三重県	あづまフーズ株式会社	水産加工品
三重県	株式会社マル伊水産	水産加工品 (ししゃも、さば、にしん)

3.輸出事業者への具体的な支援（GFP）

- GFP（ジー・エフ・ピー）とは、Global Farmers / Fishermen / Foresters / Food Manufacturers Projectの略称であり、農林水産省が推進する**日本の農林水産物・食品の輸出プロジェクト**。
- 平成30年8月31日、農林水産物・食品の輸出を意欲的に取り組もうとする生産者・事業者等のサポートと連携を図る「**GFPコミュニティサイト**」を立ち上げました。
- 当該サイトに登録した者を対象に、農林水産省がジェトロ等、輸出の専門家とともに産地に直接出向いて輸出の可能性を無料で診断する「**輸出診断**」を平成30年10月から開始しました。
- 東海農政局管内で776の事業者が登録を行っています。



GFP登録者へのサービス提供

○農林漁業者・食品事業者へのサービス

- ・専門家による無料の輸出診断
- ・GFPコミュニティサイトで事業者同士が直接マッチング
- ・GFPビジネスパートナーの紹介等による支援
- ・輸出のための産地づくりの計画策定の支援
- ・メンバー同士の交流イベントの参加
- ・規制情報等の輸出に関連する情報の提供
- ・セミナー等を通じたGFP登録者の優良事例の共有
- ・過去のセミナー動画のアーカイブ化による輸出ノウハウの提供

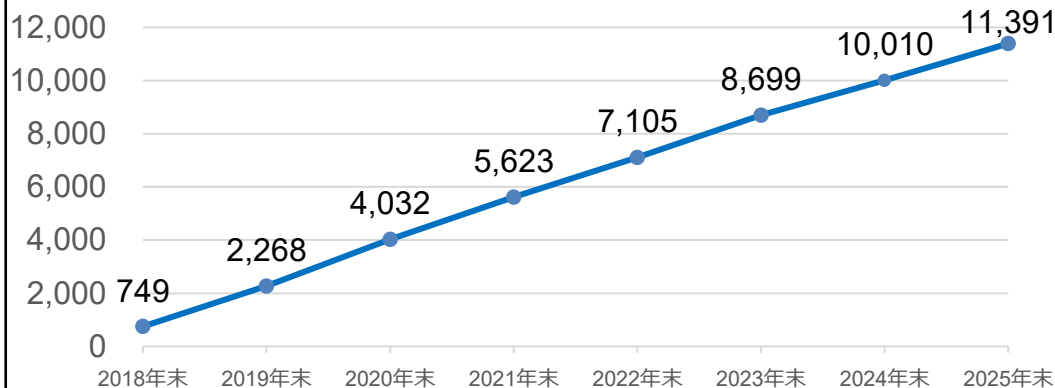
○輸出商社・バイヤー・物流企業へのサービス

- ・GFPコミュニティサイトで事業者同士が直接マッチング
- ・GFPビジネスパートナーの紹介等による支援
- ・メンバー同士の交流イベントの参加
- ・規制情報等の輸出に関連する情報の提供
- ・セミナー等を通じたGFP登録者の優良事例の共有
- ・過去のセミナー動画のアーカイブ化による輸出ノウハウの提供

GFPの登録状況（2026年3月末時点）

GFP登録者数

区分	登録者数（東海）
農林水産物食品事業者	6,316（490）
流通事業者、物流事業者	5,075（286）
合計	11,391（776）



東海地域における農林水産物・食品輸出プロジェクト（東海GFP）



○東海農政局では、「稼げる輸出」の実現・拡大を図るため、管内の輸出振興に関わる諸機関と連携した東海地域(岐阜県、愛知県、三重県)の新たな輸出サポート体制「東海GFP」を構築・運営。



○農林水産物・食品の輸出に取り組む生産者や食品製造業者等を対象に、輸出診断や課題解決に向けた専門家派遣、セミナー・商談会の実施など、現場に密着したきめ細やかな支援を実施。

東海GFPの活動内容

輸出診断&フォローアップ

農林水産本省が推進する農林水産物・食品輸出プロジェクト（GFP：Global Farmers / Fishermen / Foresters / Food Manufacturers Project）とも連携し、輸出に取り組む東海地域の事業者を対象として輸出診断を実施。その後も必要に応じ、課題解決に向けた専門家の派遣等、伴走型のフォローアップを実施。

ワークショップ・商談会の開催

輸出拡大に向けた商流構築につなげるため、効果的な商談実施に向けたワークショップを開催するとともに、国内商社との商談機会を提供。令和7年度はワークショップを3回、国内商社との商談会を1回（2日間）開催。



輸出支援ネットワークによる管内輸出支援機関の情報共有

東海3県の行政機関、輸出支援の専門機関、JAグループ、商工会連合会、地域の商社・金融機関、輸出関連団体など輸出振興を行う関係機関で構成される支援体制（輸出支援ネットワーク）を構築。輸出に取り組む東海地域の事業者が抱える課題や輸出支援事例の共有等を通じて、支援活動の質の向上を図る。

訪問診断の実施（東海GFP）



訪問診断

- ・GFPに登録した事業者のうち希望者を対象に、農政局、東海管内各県、JETRO等と共同で輸出の可能性を無料で診断する「訪問診断」を行います。
- ・これまでに、農林漁業者、加工食品業者で128回の訪問診断を実施しています。
- ・東海GFP立ち上げ後の令和5年度～6年度については、新たに輸出に取り組む事業者に対する訪問診断に力を入れ、東海GFPとして、令和5年度に28回、令和6年度に20回、計48回、訪問診断を実施しています。
- ・令和7年度についてはこれまで訪問診断を実施してきた事業者を中心に、ワークショップや商談会を案内し、加えてフォローアップを実施することにより、更なる輸出拡大に向けた商流構築を支援しています。

○訪問診断実施回数 （平成30年11月～令和8年3月）

品目	実施回数（回）
合計	128
農林水産物	40
加工食品	88

国内商社商談会・商談会ワークショップ（東海GFP）

輸出戦略・計画立案ワークショップ

令和7年8月7日（木）に、有限責任監査法人トーマツとJETRO及び東海農政局から講師を迎え、「マーケティング戦略策定の基本」、「ジェトロ輸出ステップ別支援メニューと活用事例」、「輸出計画立案のステップとポイント」、「輸出戦略設定～自社製品でケーススタディ～」をテーマに講演を実施しました。

商談スキルアップワークショップ

令和7年10月10日（金）に、輸出支援実績が豊富なKM Internationalの中 氏を講師として迎え、商談会参加に向けて輸出先国のニーズや自社商品の強みの理解・商談での注意点やFCPシート・プレゼン資料の準備などを行いました。また、代表事業者による模擬商談会を実施しました。

国内商社商談会

令和7年12月10日（水）、11日（木）に、名鉄協商、エム・アール・ティー・ジャパン、カメイ、KCセントラル貿易、三共フードトレーディング、EKD商事にバイヤーとして参加いただき、輸出に取り組む事業者を対象に「国内商社商談会」を開催しました。

振り返りワークショップ

令和8年1月15日（木）に、KM Internationalの中 氏を講師として迎え、国内商談会などの商談を通じた成果や課題を振り返り、今後のアクションを明確化することを目的とした振り返りワークショップを開催しました。



4.輸出事業者等との連携による新たな商流の構築

東海食品輸出コンソーシアムの組成と取組

- 東海農政局は、東海3県（岐阜県、愛知県、三重県）の魅力ある加工食品の一層の輸出拡大に向け、食品事業者等が連携して輸出に取り組む「加工食品クラスター」の組成を支援しています。
- 令和5年3月に組成された「東海食品輸出コンソーシアム」は、地域商社、金融機関、各県の輸出団体等を構成員として、東海3県の初めて輸出に取り組む食品事業者の掘り起こしを行い、輸出に向けたサポートを含め、各種の取組を展開しました。

東海食品輸出コンソーシアムの概要

- 令和6年度には、「加工食品クラスター輸出緊急対策事業」を活用し、タイでのマーケティング調査、シンガポール、米国（カリフォルニア、ハワイ）、タイの量販店での実証販売「東海フェア」を実施し、東海3県の魅力ある加工食品をPR。
- 令和6年度、金融機関（百五銀行、あいち銀行、十六銀行）が構成員に加入。

過去の取組事例

マーケティング調査（タイ） （令和6年7月14日～7月18日）

現地日系量販店の調査及び
現地ディストリビューターとの
意見交換を実施。



量販店企画（米国） （ハワイ：令和7年1月15日～2月4日） （カリフォルニア：令和7年1月23日～2月19日）

「東海フェア」として、シンガポールでは日系スーパーのIrohaMart、米国（ハワイ、カリフォルニア）ではパン・パシフィック・インターナショナル（PPIH）のDonQuijote等の店舗において、東海地域の商品を販売。



事業実施主体

東海食品輸出コンソーシアム

（構成員）

- ・名鉄協商株式会社（地域商社・事務局・事業統括）
- ・岐阜県食品輸出研究会（食品製造事業者団体）
- ・愛知県食品輸出研究会（食品輸出研究会団体）
- ・三重三八会（食品製造事業者団体）
- ・三重県農林水産物・食品輸出促進協議会（食品製造事業者団体）
- ・あいちフィナンシャルグループ（金融機関）
- ・十六銀行（金融機関）
- ・百五銀行（金融機関）

連携事業者

- ・株式会社エイチ・アイ・エス（伴走支援等）（予定）
- ・名鉄ワールドトランスポート株式会社（国際物流）
- ・株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス（米国・香港・台湾事業）
- ・Imei (Exim) Pte.LTD（シンガポール事業）
- ・HKTMALL（香港事業）（予定）
- ・KCセントラル貿易株式会社（米国事業）
- ・農林中央金庫 名古屋支店（事業参画企業募集）

支援機関

- ・JETRO（名古屋、岐阜、三重）
- ・中小企業基盤整備機構 中部本部
- ・行政機関（岐阜県・愛知県・三重県）
- ・あいちの農林水産物輸出促進会議
- ・あいち産業振興機構
- ・岐阜県産業経済振興センター
- ・香港貿易発展局
- ・三重県産業支援センター

オブザーバー

- ・東海農政局

※常時情報連携

※アドバイス
事業紹介等

各県の食品輸出研究会①

- 管内の各県では、輸出促進、販路拡大などを目的として、食品輸出研究会を設立し食品企業のグループで取組を進めています。県内の食品原料、加工品を取り扱う事業者で構成されております。
- 定例会には、東海農政局、中部経済産業局、各県庁、農林中金などの金融機関も出席し、輸出に関する各種支援措置等を紹介するとともに、意見交換に参加しています。

岐阜県食品輸出研究会

県内の優れた食品の世界市場への輸出を目指す団体として、食品メーカー12社（令和8年4月現在）で構成され、海外で人気の高い日本酒、県産品の農畜水産物、岐阜県内で加工された食品など、日本食文化との親和性を持つ製品を中心に取り扱っています。

～食品事業者の連携により輸出拡大に取り組む～

定例会を2か月に一度開催し、会員間の情報交換を行うとともに、農政局をはじめとする支援機関からの情報提供等の場として活用されています。

令和7年度にはベトナムの現地イベントで、鮎や和牛の調理・盛り付け実演、ラーメン職人開発のレシピに会員事業者の醤油を使用したしょう油ラーメンの紹介、菓子職人によるスイーツアレンジ実演を実施。

令和7年度、ベトナムでの現地イベントの様子



鮎の調理・盛り付け実演



和牛の調理・盛り付け実演



菓子職人による
スイーツアレンジ実演

各県の食品輸出研究会②

愛知県食品輸出研究会

輸出先事業者の平松食品を中心に一次製品・加工食品メーカー45社で構成され、令和7年度は、アメリカ、マカオ、ベトナムを中心に各会員企業の販路拡大に向け取り組みました。

構成員

平松食品



会長

県内メーカー



44社

- ・ 海外市場情報提供
- ・ プロモーション支援
- ・ 規制対策・認証取得支援

支援機関等

東海農政局

中部経済産業局

ジェトロ名古屋

愛知県・市町村

金融機関

令和7年度の活動実績

アメリカ

Winter Fancy Faire 2026に出展し、アメリカマーケットやバイヤーの生のフィードバックを得ることで今後の営業活動・商品開発などに活用。

マカオ

マカオのディストリビューターと連携して試食商談会を実施。また、Macau Food Festival 2025にて愛知の食をプロモーション。

ベトナム

ベトナムのイオンモールにて催事と定期プロモーションを実施。また、販路開拓を目指し、FOOD EXPO VIETNAMに出展。



Winter Fancy Faire 2026 出展の様子 FOOD EXPO VIETNAM 2026 出展の様子

各県の食品輸出研究会③

三重三八会（三重国際食品ビジネス協議会）

県内の優れた食品の世界市場への輸出を目指す団体として、食品メーカー5社で構成され、米国、中国、香港、EU、オーストラリアを中心に、小売りやECなどに向けた商品開発、販路開拓を行い、輸出に取り組んでいます。

令和7年度の活動実績

アメリカ

新規市場の開拓を目指して、ニューヨーク共同貿易レストランエキスポ、ロサンゼルス共同貿易レストランエキスポなどの見本市に、共同開発商品の参考出品を委託し、現地の反応を調査。

香港

現地のマーケティンググループを借りて、EC・店舗テストマーケティングの商品の発送やバイヤー向けの商談会を実施。



ニューヨーク共同貿易
レストランエキスポ
の様子



香港 誠品生活
PRイベント&商談会
の様子

中部国際物流協議会の設立

三八会を母体に中部国際物流協議会を立ち上げ、地域商社（株式会社萬来トレーディングコンサルタント）と連携し、名古屋港・四日市港・中部国際空港など地域インフラを活用した共同物流に取り組んでいます。また、連携企業の強みや経営資源を活用し、長期保存技術の共同研究や商品開発、特許申請に取り組んでいます。

金融機関との輸出促進に関する連携協定の締結①

あいち銀行（旧 愛知銀行及び中京銀行）との連携協定（締結日：令和5年1月12日）

連携協定の内容

本協定は、東海農政局と両行が農林水産物・食品の輸出促進に関し、持続的・発展的に連携を深めることにより、両行の取引先である生産者・食品企業が輸出に取り組み、海外での販売力強化・経営基盤強化に繋げ、東海地域において農林水産物・食品の輸出をさらに拡大することを目的とするものです。



連携イベント

➤ **ニッポンの美味しいを世界へ。日本「食」輸出セミナー&個別相談会（令和5年2月27日）**
内容：農林水産物・食品の海外販路開拓に興味をお持ちの方を対象に、輸出に活用できる政府政策の紹介や、輸出の取組フェーズに応じた個別相談会を実施しました。

➤ **今こそMade in Japanを世界へ 輸出セミナー&個別相談会（令和5年7月20日）**
内容：東海農政局は、「輸出先国・地域の輸入規制について」と題して講演を行いました。セミナー終了後のアンケートでは、「国別に細かくルールが違ってきますので、自力で一個一個調べるのが苦痛でしたので大変助かります。」といったコメントをいただきました。



➤ **アジア圏へ販路開拓を目指せ!!**
～愛知大学留学生による輸出促進テイスティング～（令和7年11月13日）
主催・共催：愛知大学国際ビジネスセンター、東海農政局、株式会社あいち銀行
内容：愛知大学の留学生が、中国やアジア圏へ輸出を目指す事業者の商品を試食し、自社製品の評価を深く理解し、国際展開の可能性を探ることを目的としております。



金融機関との輸出促進に関する連携協定の締結②

百五銀行との連携協定（締結日：令和7年3月7日）

連携協定の内容

東海農政局と百五銀行は、協定締結以前も農林水産物・食品の輸出拡大に向けた事業者同士のビジネスマッチングや地域産品の新規販路開拓に協同で取り組んできました。本協定の締結を契機として、持続的・発展的に連携を深め、東海地域における農林水産物・食品の輸出促進の取組をさらに強化させていきます。

連携イベント

▶ インドネシア・ハラル ラウンドテーブルミーティング（令和7年3月7日）

共催：東海農政局、百五銀行

内容：海外輸出を目指す農林漁業者・食品事業者やインバウンド拡大を目指す外食産業事業者・観光事業者など約60名が参加し、ハラルに関する理解を深め、輸出ビジネス拡大に活用できる最新情報を知る機会となりました。

▶ 農林水産物・加工食品輸出促進セミナー（令和7年9月29日）

共催：東海農政局、百五銀行、（一財）食品分析開発センターSUNATEC

内容：東海地域の生産者や食品関連事業者、輸出を推進する行政・団体だけでなく、全国から450名以上（WEB含む）が参加し、当局のほか輸出事業者、香港貿易発展局、SUNATECから講演を行いました。各講演者に様々な質問も寄せられ、参加者アンケートには、次回開催を期待する意見などもありました。



商工団体との輸出促進に関する連携協定の締結

四日市商工会議所との連携協定（締結日：令和7年5月16日）

連携協定の内容

四日市商工会議所とは、これまでに輸出における課題の共有や課題解決に向けた方策に関する意見交換を行ってきました。連携協定の締結により、これまで以上に協力関係を強化し、地域の事業者の輸出に対する機運醸成や輸出拡大の実現に向けた機会の提供などの支援を強化させていただきます。

連携イベント

- ▶ **海外バイヤー招へい 個別商談会（令和7年6月16日）**
共催：東海農政局、四日市商工会議所
内容：東南アジアに販路を持つシンガポールのバイヤーを招へいし、東海管内の事業者15社が商談を実施しました。
- ▶ **EKD商事 個別商談会（令和7年9月2日、3日）**
共催：東海農政局、四日市商工会議所、百五銀行
内容：岐阜県に本社があるEKD商事株式会社からバイヤーを招へいし、東海管内の事業者17社が商談を実施しました。
- ▶ **北京イートヨーカドー バイヤー招へい 個別商談会（令和7年10月10日）**
共催：東海農政局、四日市商工会議所、百五銀行
内容：中国国内にて日本食品の輸入・流通に携わっている中国のバイヤーを招へいし、東海管内の事業者9社が商談を実施しました。



5. 積極的な情報の発信による輸出機運の醸成

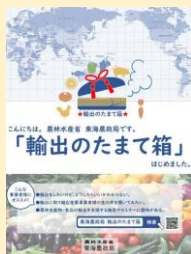
輸出のたまて箱

「輸出のたまて箱」では、輸出のノウハウや各支援機関が実施する支援策等について情報を公開をしています。

また、東海農政局管内（岐阜県、愛知県、三重県）で輸出に取り組む事業者のインタビュー動画を通じて、それぞれの会社の強みを活かした輸出の取組を紹介しております。そのほかにも東海GFPが主催したセミナーのアーカイブ動画なども配信しております。

こんな事業者におすすめ！

- ☞ 輸出をしたいけど、どうしたらいいかわからない。
- ☞ 輸出に取り組む事業者の生の声を聞いてみたい。
- ☞ 輸出を支援する施策やセミナーに興味がある。



【二次元コード】



東海農政局 輸出のたまて箱 検索

東海GFPコミュニティサイト

「東海GFPコミュニティ」では、東海農政局が主催する輸出関連のセミナーやイベント、農林水産省による補助事業の公募情報に加え、JETROや中小機構など、関係機関による補助事業や支援メニュー、商談会や展示会等のイベント情報などを、HP及びメールマガジンにより発信しております。

東海GFPコミュニティとは・・・

農林水産省が推進する日本の農林水産物・食品の輸出プロジェクトである「GFP」の東海地方版として、東海農政局が立ち上げたコミュニティです。

管内（岐阜県、愛知県、三重県）の輸出促進に関わる関係機関と連携し、現場に密着した輸出の取組支援を行っています。



【二次元コード】



東海農政局 GFPコミュニティ 検索

東海地域の農林水産物・食品の輸出取組事例

本ページでは、東海地域において農林水産物・食品の輸出に取り組んでいる事業者等の取組事例を紹介しています。

東海農政局管内（岐阜県、愛知県、三重県）の取組については、「各県別」「品目別」に分けて掲載しております。

輸出実績や取組時に生じた課題及び課題への対応、取組の効果、今後の展望などを事業者ごとに分かりやすく記載しております。

1. 各県別の取組事例（東海）※事業者名をクリックすると取組が表示されます。

イラストをクリックすると各県の取組へ移動します。



2. 品目別の取組事例（東海）※事業者名をクリックすると取組が表示されます。

イラストをクリックすると各品目の取組へ移動します。



【二次元コード】



東海農政局 輸出取組事例 検索

事業者向けリーフレット「はじめての輸出！」

- ・輸出をはじめる事業者、輸出拡大を検討する事業者向けにリーフレットを作成しました。
- ・取組のステップにあわせて、マーケティングや商流構築、物流改善等について解説しています。

ステップ1：マーケティング

輸出は国内取引とは異なり、輸出先国ごとに規制や消費者の嗜好が異なります。輸出先国の事情と自社の強みや特徴を把握し、「マーケットイン」の発想で、輸出に取り組むことが重要です。

ステップ2：商流構築

輸出プランを実現するには、適切なパートナー選びが不可欠です。自社にとって直接輸出と間接輸出のどちらの輸出手法が効果的なのか検討する必要があります。また、取引先と知り合うための方法について紹介しています。

ステップ3：物流構築

輸出では、国内取引に比べ輸出コストがかかり、輸出先国での販売価格に大きな影響を与えます。このため、輸送時の品質確保とコスト低減の両立を図り、価格競争力を高めることが大切です。

チェックリスト

マーケットイン、商流構築、物流構築のそれぞれの項目でチェックリストを掲載しています。

輸出に取り組んだ先輩の声

それぞれのステップごとに、輸出に取り組んだ先輩たちの声を掲載しています。

以下のURLからダウンロードできます。

【URL】 <https://www.maff.go.jp/tokai/keiei/renkei/export/attach/pdf/index-3.pdf> 【二次元コード】



6. フラッグシップ輸出産地の認定



○ 輸出拡大実行戦略において、輸出先国・地域のニーズや規制に対応した農林水産物を求められる量で継続的に輸出する産地を「フラッグシップ輸出産地」として有識者会議にて選定し、公表。現在108産地を大臣認定（2025年12月末現在）

▶フラッグシップ輸出産地の選定基準

- ① 輸出先国・地域の規制やニーズに対応した輸出向け生産・流通に取り組んでいること
- ② 品目ごとに設定された一定の量又は金額の輸出実績があること
- ③ サプライチェーンを構築し、継続的・安定的に輸出していること 等

○ 「フラッグシップ輸出産地」に対し、補助事業等各種支援措置を優先的に実施することにより、その更なる拡大・発展を後押し

【全108産地】

フラッグシップ輸出産地 認定産地 (2025年12月現在)

	青果物(40産地)
りんご	株式会社日本農業① 青森県 全国農業協同組合連合会山形県本部② 山形県 つがる弘前農業協同組合③ 青森県 津軽みらい農業協同組合④ 青森県 アグベル株式会社⑤ 山梨県、茨城県
ぶどう	全国農業協同組合連合会山梨県本部 (JAフルーツ山梨・JAふえふき・JA山梨みらい・JA南アル山梨県プス市・JA梨北)① 山梨県 笛吹農業協同組合一宮ブロック果実販売対策協議会① 山梨県 株式会社新並商事② 山梨県 全国農業協同組合連合会岡山県本部 (JA岡山・JA晴れの国岡山)② 岡山県 全国農業協同組合連合会長野県本部② 長野県 ジャパンフルーツ株式会社③ 栃木県、長野県
みかん	全国農業協同組合連合会山梨県本部 (JAフルーツ山梨・JAふえふき・JA山梨みらい・JA南アル山梨県プス市・JA梨北)① 山梨県 笛吹農業協同組合一宮ブロック果実販売対策協議会① 山梨県 全国農業協同組合連合会岡山県本部 (JA岡山・JA晴れの国岡山)② 岡山県 和歌山県農業協同組合(JAわかやま)③ 和歌山県 えびめ愛フード推進機構④ 愛媛県 株式会社ローンファーム熊本① 熊本県
柿	Jewelry Farm Group 株式会社③ 福岡県 和歌山県農業協同組合(JAわかやま)③ 和歌山県 みなみ信州農業協同組合① 長野県 農事組合法人富士干柿出荷組合連合会② 富山県 志賀農業協同組合④ 熊本県、三重県、兵庫県
いちご	株式会社イチゴラス① 熊本県 サブリッジファーマーズ株式会社① 静岡県 静岡県経済農業協同組合連合会① 静岡県 島原雲山農業協同組合① 長崎県 熊本県経済農業協同組合連合会③ 熊本県 北部九州いちご輸出促進協議会④ 福岡県、佐賀県 かとり農業協同組合① 千葉県
かんしょ	株式会社しまアオイファーム① 宮城県、北海道、茨城県、熊本県、鹿児島県 ジャパンベジタブル株式会社① 静岡県 Japan potato 有限会社① 鹿児島県、千葉県、茨城県 なめがたしおさい農業協同組合甘藷部連絡会① 茨城県 農家ソムリエーズ① 徳島県 有限会社南橋商事① 鹿児島県、宮城県
玉ねぎ	ホクレン農業協同組合連合会② 北海道 メロン 静岡県温室農業協同組合クラウメロン支所① 静岡県 なし 大分県農業協同組合日田梨部会⑤ 大分県 わさび 藤屋わさび農園 有限会社③ 長野県

	米(9産地)
米	株式会社百笑市場① 茨城県 みやぎ倉米農業協同組合① 宮城県 全国農業協同組合連合会滋賀県本部(JA全農)が② 滋賀県 新潟クボタグループ(勝新潟クボタ・勝新潟農商)② 新潟県 ホクレン農業協同組合連合会② 北海道 みな種農業協同組合② 富山県 秋田県農産物輸出促進協議会「グローバルリーチ AKITAJ」③ 秋田県 芦別RICE北海道米輸出拡大推進協議会③ 北海道 松原米穀契約生産者組合③ 北海道

	花き(4産地)
切り花	愛知みなみ農業協同組合② 愛知県 高知市農業協同組合③ 高知県 赤石五葉松輸出振興組合① 愛媛県、香川県 盆栽 高松盆栽輸出振興会① 香川県

	茶(12産地)
茶	オーガニックティーミヤザキ① 宮城県 株式会社大石茶園① 福岡県、静岡県、三重県、京都府、熊本県、宮城県、鹿児島県 株式会社流通サービス① 静岡県 京都府農林水産物・加工品輸出促進協議会 宇治茶部会① 京都府 静岡オーガニック抹茶株式会社① 静岡県 丸山製茶株式会社① 静岡県 鹿児島県経済農業協同組合連合会② 鹿児島県 株式会社まえるい② 三重県 池田製茶株式会社③ 鹿児島県 株式会社あいや④ 愛知県 丸元水沢製茶株式会社③ 三重県 有限会社荻村製茶③ 三重県

	畜産物(25産地)
牛肉	秋田牛輸出促進コンソーシアム① 秋田県 かみチク食肉輸出コンソーシアム① 鹿児島県 JA食肉かこしま輸出コンソーシアム① 鹿児島県 スターゼンミートコンソーシアム① 鹿児島県、宮城県 山形県食肉流通・輸出促進コンソーシアム① 山形県 黒標牛輸出促進コンソーシアム② 熊本県、宮城県、鹿児島県、大分県 ホクレン食肉輸出コンソーシアム② 北海道 宮崎県牛肉輸出コンソーシアム② 宮崎県 ブランドおおい輸出促進協議会畜産部会② 大分県
和牛	和牛マスター輸出拡大コンソーシアム② 兵衛県、北海道、岩手県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、長野県、滋賀県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、福岡県、佐賀県、大分県、宮城県、鹿児島県

	水産物(16産地)
ふり	愛育フィッシュ輸出促進共同企業体② 愛媛県 東町漁業協同組合④ 鹿児島県 大分県漁業協同組合② 大分県 尾島物産株式会社② 三重県、愛媛県、高知県、香川県 グローバル・オーシャン・ワークスグループ② 鹿児島県
たい	愛育フィッシュ輸出促進共同企業体② 愛媛県 愛南漁業協同組合② 愛媛県 株式会社播磨灘② 兵庫県 クニヒロ株式会社③ 広島県
牡蠣	日本石花と仲間たち (英名: Japan Oysters & Co.)③ 三重県、兵庫県、徳島県、香川県、広島県、福岡県、大分県、長崎県

	林産物(2産地)
製材	桑原木材株式会社② 愛知県、岐阜県、三重県、長野県 江与味製材株式会社③ 岡山県

	畜産物(25産地)
豚肉	ホクレン食肉輸出コンソーシアム② 北海道 オヤマ輸出コンソーシアム① 岩手県 徳島県阿波尾鶏ブランド確立対策協議会① 徳島県
鶏肉	株式会社エムイーサーフーズ① 千葉県 株式会社トマル① 群馬県、栃木県 JA全農たご株式会社① 福岡県、鹿児島県
鶏卵	熊本県酪農業協同組合連合会② 熊本県 大山乳業農業協同組合② 鳥取県 北海道乳業株式会社輸出促進協議会② 北海道 雪印メグミルクコンソーシアム② 北海道 よつ葉輸出促進協議会② 北海道
牛乳	熊本県酪農業協同組合連合会② 熊本県 大山乳業農業協同組合② 鳥取県 北海道乳業株式会社輸出促進協議会② 北海道 雪印メグミルクコンソーシアム② 北海道 よつ葉輸出促進協議会② 北海道

【フラッグシップ輸出産地動画リンク】⇒



東海地域におけるフラッグシップ輸出産地の認定産地

令和7年12月時点



飛騨ミート農業協同組合連合会コンソーシアム（岐阜県）

品目	畜産物（牛肉）
主な輸出先	台湾、香港等（2024年）
産地の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・農業協同組合連合会を中心に生産者128者と連携し、牛肉の輸出施設認定を取得しながら輸出に取り組む産地（畜産物輸出コンソーシアム）。 ・EUや米国、オーストラリアなど19の国・地域の輸出認定を取得し、飛騨牛を輸出。



【各産地紹介リンク】



愛知みなみ農業協同組合（愛知県）

品目	花き（グロリオサ、スイートピー）
主な輸出先	中国、米国（2023年）
産地の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年より、国内市場の縮小する背景を踏まえ、輸出を開始。 ・主にグロリオサ出荷連合、スイートピー出荷連合がJA愛知みなみと一体になった輸出に取り組んでいる。また、他品目の切り花においても輸出を検討している。



【各産地紹介リンク】



株式会社まるゑい（三重県）

品目	茶（伊勢茶）
主な輸出先	米国、オーストラリア等（2023年）
産地の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県北勢地域の茶生産者（10社）と連携をとり、茶生産を行うとともに、茶生産者が生産した茶葉を株式会社まるゑいが毎年安定して購入し、自社にて粉末加工等を行い、約25か国に向けて直接輸出を行っている。



【各産地紹介リンク】



株式会社あいや（愛知県）

品目	茶
主な輸出先	米国、ドイツ等（2024年）
産地の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・抹茶メーカーが地域の契約生産農家48者と連携し、海外向け碾茶の農薬基準を遵守しながら輸出に取り組む産地。 ・全世界に共通する農薬基準を生産者へ提示、遵守の徹底。



【各産地紹介リンク】



丸原水沢製茶株式会社（三重県）

品目	茶
主な輸出先	米国、ドイツ等（2024年）
産地の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者7者と連携し、アメリカ・EU向けに対応した防除計画の下で輸出に取り組む産地。 ・連携農家はレインフォレスト・アライアンス認証（農場要件）、同社はレインフォレスト・アライアンス認証（サプライチェーン要件）を取得。



【各産地紹介リンク】



有限会社萩村製茶（三重県）

品目	茶
主な輸出先	フランス、マレーシア等（2024年）
産地の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・自社農園を管理するとともに茶生産者30者と連携し、EU・米国向け防除指針のもとで輸出に取り組む産地。 ・有機JAS規格、FSPCA、HALAL、FSSC22000、ISO22000などの認証を取得。



【各産地紹介リンク】



桑原木材株式会社（愛知県、岐阜県、三重県、長野県）

品目	品目：製材（建築資材、内装資材）
主な輸出先	主な輸出先：中国、韓国等（2023年）
産地の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・20年以上前から、中国への輸出を開始。 ・原木はFSC認証に適合していること、年輪の間隔等の品質が優れているものを調達し、輸出相手先国の規格に応じ、建築資材、内部材料など輸出先に合わせた加工を行っている。



【各産地紹介リンク】



尾鷲物産株式会社（三重県、愛媛県、高知県、香川県）

品目	水産物（ぶり）
主な輸出先	香港、台湾等（2023年）
産地の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・自社だけでなく、熊野灘地区他の養殖ブリの協力生産者とともに生産に取り組んでいる。 ・2015年より、国内需要の頭打ちにある背景を踏まえ、直接輸出による輸出拡大に向けた取組を開始し、現在8事業者の協力生産者とともに輸出に取り組んでいる。



【各産地紹介リンク】



三重県漁業協同組合連合会（三重県、鹿児島県、長崎県、愛媛県）

品目	水産物（ぶり）
主な輸出先	米国、タイ等（2023年）
産地の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年より参画する5つの魚協と連携し、サンプル出荷や展示会への出展などを通じ、輸出促進に向け取り組んでいる。 ・三重県漁連では養殖のブリ、マダイ、カンパチ、シマアジ、ヒラメ、サーモンでハラル認証取得。



【各産地紹介リンク】

7.輸出に取り組む優良事業者の表彰

○農林水産省は、農林漁業者や食品事業者などの輸出意欲を喚起するため、輸出に取り組む優れた事業者に対して表彰を行い、その取り組みを広く紹介する「輸出に取り組む優良事業者表彰」を実施しています。

東海農政局長賞の受賞者

【令和6年度】

あづまフーズ株式会社（三重県 三重郡菰野町）

1990年代から北米やアジア諸国向けに輸出を開始し、現在に至るまで、多くの国へ販路を拡大してきました。また、Azuma Foods international inc.,U.S.AやAzuma Foods (Canada)Co.,Ltd、東之味食品(苏州)有限公司など、海外のグループ会社を通して輸出をしています。

清水清三郎商店株式会社（三重県 鈴鹿市）

代表取締役の清水慎一郎氏は、三重県酒造組合の会長も務められ、「美食の聖地・三重の酒」を組合のキャッチフレーズに掲げて、活動されています。令和2年6月には、国税庁により酒類の地理的表示(GI)に「三重」として、三重県の日本酒が指定されました。



【令和5年度】

- 株式会社平松食品（愛知県豊川市）
- 名鉄協商株式会社（愛知県名古屋市）

【令和4年度】

- 三栄鶏卵株式会社（愛知県岡崎市）

過去の受賞者（農林水産大臣賞）

【令和3年度】

- 飛騨ミート農業協同組合連合会（岐阜県高山市）

【平成30年度】

- 金印株式会社（愛知県名古屋市）

【平成28年度】

- 尾鷲物産株式会社（三重県尾鷲市）

8.輸出証明書等の発行

○東海農政局輸出証明書発行窓口では、平成25年4月以降、輸出先国・地域からの求めに応じて事業者向けに輸出証明書の発行を開始しました。令和7年6月現在、原発関連証明書や衛生証明書、自由販売証明書等の証明書を発行しています。

東海農政局管内における各種証明書の発行実績

原発関連証明書発行件数（令和3年度から令和7年度）

国・地域\年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
アジア	中国	33,782	32,718	21,980	17,133	18,364
	韓国	1,335	1,448	1,685	2,012	3,342
	小計	35,117	34,166	23,665	19,145	21,706
欧州		46	27	3	0	0
中東		0	0	0	0	0
合計		35,163	34,193	23,668	19,145	21,706

注：産地証明と検査証明の合算件数を掲載

その他の証明書（令和7年度）

自由販売証明書
発行件数 193件

衛生証明書
発行件数 242件
うち畜産加工品（韓国） 4件

タイ向けGMP証明書
発行件数（食品） 12件

オーストラリア向け輸出かきの産地証明書
発行件数 1件

【参考】施設認定件数

衛生証明書関連 4件
タイ向けGMP証明書関連 9件

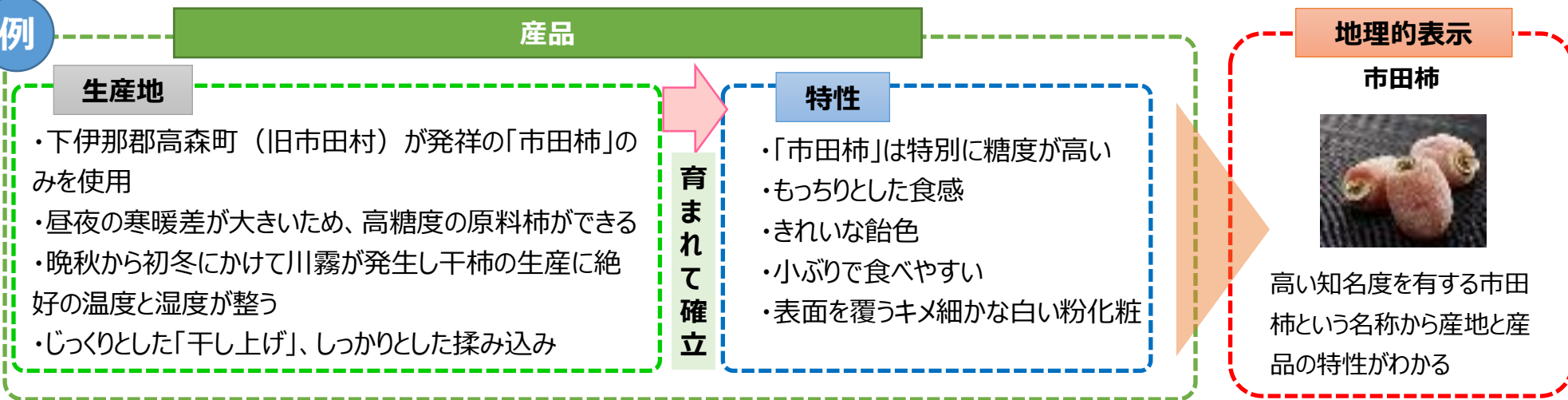
9.地理的表示 (GI) 保護制度の取組



地理的表示(GI)保護制度とは

- GI制度は、その地域ならではの自然的、人文的、社会的な要因・環境の中で長年育まれてきた品質、社会的評価等の特性を有する製品の名称を、地域の知的財産として保護するものです。
- ビジネスにおいては、地域と結びついた製品の品質、製法、評判、ものがたりといった潜在的な魅力や強みを見える化し、国による登録やGIマークと相まって、効果的・効率的なアピール、取引における説明や証明、需要者の信頼の獲得を容易にするツールです。

例



- 地理的表示は、生産者団体が産品について登録を受け、構成員が使用。登録内容は明細書に記載。
- 登録を受けた生産者団体は、構成員が行う「生産」が、明細書に適合して行われるよう、必要な指導・検査等を実施（生産行程管理業務）。
- 東海地域で登録されている産品：【岐阜】①奥飛騨山之村寒干し大根 ②堂上蜂屋柿 ③飛騨牛【愛知】④八丁味噌 ⑤豊橋なんぶとうがん ⑥豊橋花穂【三重】⑦特産松阪牛

- 登録された地理的表示が不正使用された場合には、行政が取締り。

東海地域で登録されているGI産品①



特産松阪牛

生産地	平成16年11月1日当時の行政区画名としての三重県松阪市を含む22市町村
特性	未經産の黒毛和種の雌牛を12ヶ月齢までに兵庫県から導入し、900日以上長期にわたり肥育。不飽和脂肪酸を多く含んでいることから脂肪が溶け出す温度が低く、きめ細やかなサシのある牛肉。
地域との結びつき	古くから日本全国からの旅行者の往来が多く、交易が盛んであるなか、長期肥育による肉質の探求にいち早く特化。技術継承のための取組を継続することで、長期肥育に対応できる肥育方法を確立。



【各産品紹介リンク】



奥飛騨山之村寒干し大根

生産地	岐阜県飛騨市神岡町山之村地区
特性	山之村地区で、冬場の保存食として伝統的に作られてきた輪切りで厚みのある寒干し大根。アメ色で煮物などにすると独特の甘みとコリツとした歯応えのある食感。
地域との結びつき	山之村地区は標高約1000mにある豪雪地帯で、厳冬期にはマイナス20℃以下になることもあり、1ヶ月以上寒風干しを行う「奥飛騨山之村寒干し大根」作りに最適。冬場は2mに及ぶ積雪に覆われ、寒風干し中に土埃などの付着を防ぎ、高品質な寒干し大根の生産ができる。手作業を中心とした伝統的な製法が引き継がれている。



【各産品紹介リンク】



八丁味噌

生産地	愛知県
特性	赤褐色で色が濃く、適度な酸味、うまみと苦渋味といった他の味噌にない独特な風味を有する。愛知県民の濃い味を好む嗜好と相まって「名古屋めし」の代表的な調味料として定着。
地域との結びつき	愛知県は高温多湿な気候であり、製麹過程で腐敗しやすい自然条件の下で、天保、弘化、嘉永頃（約200年前）には、塩と大豆を用いて安全に味噌作りができる味噌玉作り製法が定着した。気温が高いことにより、熟成において大豆の分解が進みやすい。高温多湿な環境では、塩分・栄養価の高い味噌が好まれた。



【各産品紹介リンク】



堂上蜂屋柿

生産地	岐阜県美濃加茂市
特性	非常に大きい干し柿で、平均80gとなる。果肉は飴色で繊維質が少なく柔らかい。糖度は65度にもなる。品質が良く贈答品として高く評価。
地域との結びつき	昼夜の温度差がある盆地型の気候により、高糖度の柿が生産される。干し柿加工の季節は晴天日が多く、かつ朝晩の冷え込みが強いいため天日干しの開始時間に屋外の柿が急激に乾燥するのを防ぐ。伝統技法（二オボウキ）による丁寧な加工行程を経て品質の整った干し柿が完成する。古来から殿上人（堂上）に献上する柿として広く知られている。



【各産品紹介リンク】

東海地域で登録されているGI産品②



豊橋なんぶとうがん

生産地	愛知県豊橋市
特性	収穫後一時保管し、着色ムラが少なく、光沢のある鮮やかな外観を有する冬瓜を長期出荷している。全国2位の生産量である愛知県の中で約6割を占め、傷が少なく、カット販売時にロスが少ない点も高く評価され、他産地と比べ1～3割程度高値で取引されている。
地域との結びつき	温暖な気候と豊川用水による豊かな水を活かして栽培している。生育状況に合わせた目揃いを年複数回開催し、栽培技術の平準化を図り、厳しい出荷規格を徹底している。



【各産品紹介リンク】



飛騨牛

生産地	岐阜県
特性	「全国和牛能力共進会」で2大会連続最優秀枝肉賞を受賞するなど、その優れた脂肪交雑を含め品質が高い。東京都中央卸売市場食肉市場の和牛去勢平均価格と比較し5・4等級で約2割、3等級で約1割近く高値で取引。
地域との結びつき	大正時代から個々の生産者による肉質改良が行われ、昭和20年代からは集団的改良が始まり、肥育技術の向上を図るなど、地域を挙げて長期的・安定的優良肉用牛の生産体制を確立。



【各産品紹介リンク】



豊橋花穂

生産地	愛知県豊橋市、豊川市行明町、豊川市伊奈町、豊川市御津町、新城市作手清岳
特性	鮮やかな赤紫色の花弁とさわやかな香りを持つ紫蘇花穂である。品質の高さと周年供給体制が高く評価され国内では東京中央卸売市場における花穂の取扱量のトップを誇る。20年ほど前からEUやアメリカなど複数の国に輸出、近年の日本食ブームで引き合いが強くなっている。
地域との結びつき	豊橋市近郊は、温暖な気候と豊川用水の安定した水の供給、都市近郊地帯に位置することから、ハウス等の施設園芸が盛ん。特に、刺身に添えられる「つまもの」の生産地として発展。昭和39年に花穂を生産・出荷した当初は、冬季のみの出荷だったものが、生産者による花穂専用の品種開発・品種登録、温室生産の技術の蓄積により、高品質の花穂の周年供給を実現。



【各産品紹介リンク】